

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第40週 (9/28-10/4) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		40週	39週	38週	37週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	27	27	23	27
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/28-10/4	9/21-9/27	9/14-9/20	9/7-9/13	9/21-9/27
			40週	39週	38週	37週	39週
小児科	RSウイルス感染症		7 0.39	3 0.17	2 0.12	7 0.39	62 0.46
	咽頭結膜熱		3 0.17	0 0.00	3 0.18	7 0.39	16 0.12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21 1.17	14 0.78	36 2.12	18 1.00	157 1.16
	感染性胃腸炎		73 4.06	46 2.56	59 3.47	60 3.33	249 1.84
	水痘		6 0.33	2 0.11	6 0.35	1 0.06	18 0.13
	手足口病	↓↓★	69 3.83	95 5.28	154 9.06	118 6.56	502 3.72
	伝染性紅斑	○	16 0.89	10 0.56	16 0.94	21 1.17	48 0.36
	突発性発しん		17 0.94	3 0.17	16 0.94	19 1.06	29 0.21
	百日咳		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		13 0.72	3 0.17	18 1.06	12 0.67	61 0.45
	流行性耳下腺炎		8 0.44	10 0.56	3 0.18	11 0.61	74 0.55
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.07	1 0.04	0 0.00	0 0.00	12 0.06
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	◎	15 3.00	6 1.20	7 1.75	3 0.60	30 0.88
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	O抗原凝集抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出				
結核	女性	40歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	30歳代	病原体の検出及び ヘロ毒素の確認
ウイルス性肝炎	男性	40歳代	IgM Hbc抗体の検出				
ウイルス性肝炎	男性	50歳代	IgM Hbc抗体の検出	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出

・結核3件(171)、腸管出血性大腸菌感染症2件(11)、ウイルス性肝炎2件(4)、梅毒1件(10)の報告があった。  
 ※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

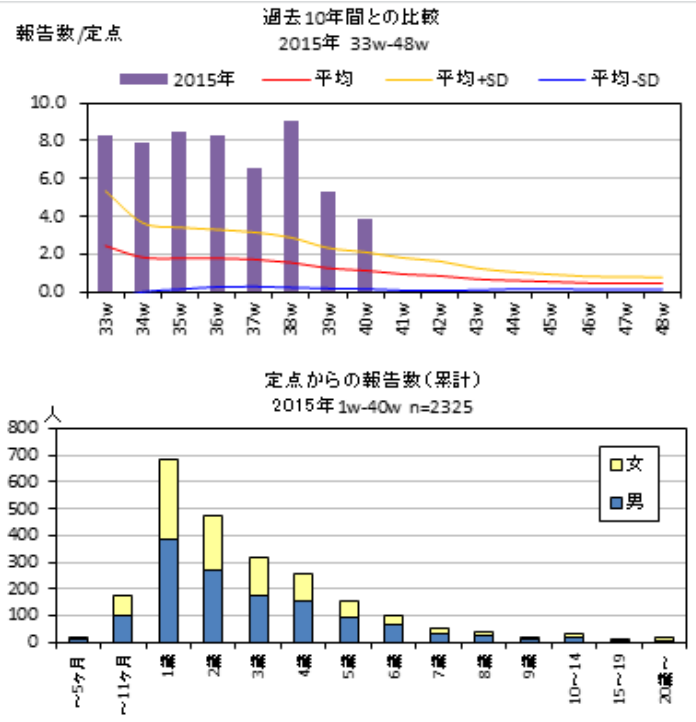
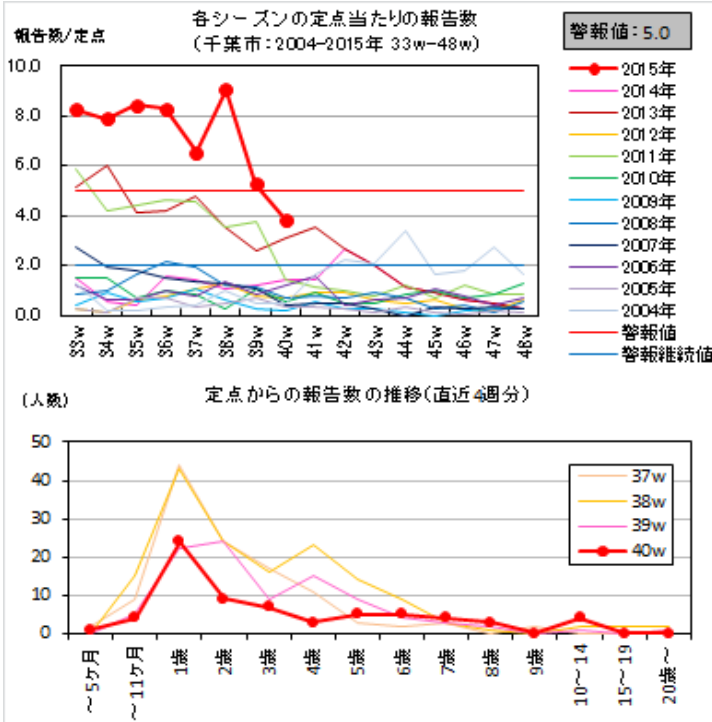
## 定点当たり報告数 第40週のコメント

<手足口病> 前週より減少し3.83となった。流行発生警報開始基準値は下回ったが、流行発生警報終息基準値は上回っている。過去10年の同時期と比べると最多。  
 <伝染性紅斑> 前週より増加し0.89となった。過去10年の同時期と比べると最多。  
 <流行性角結膜炎> 前週より増加し3.00となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

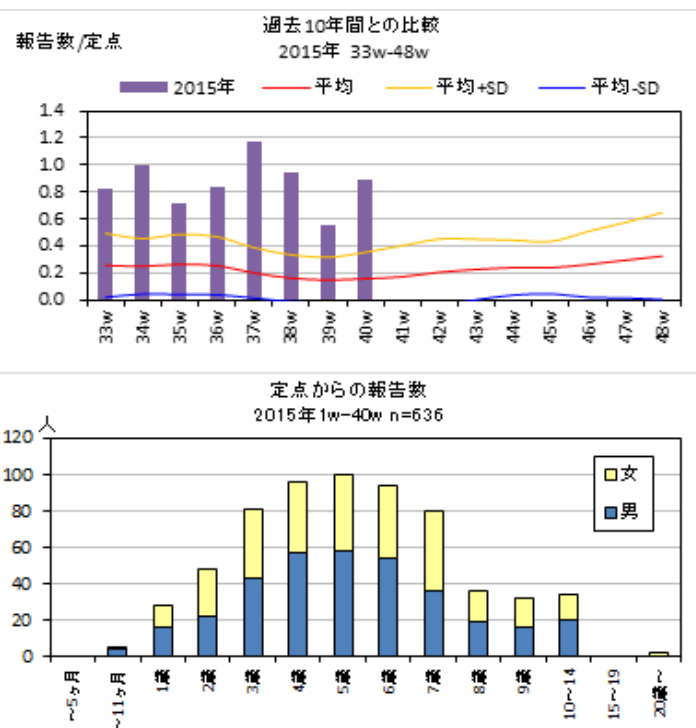
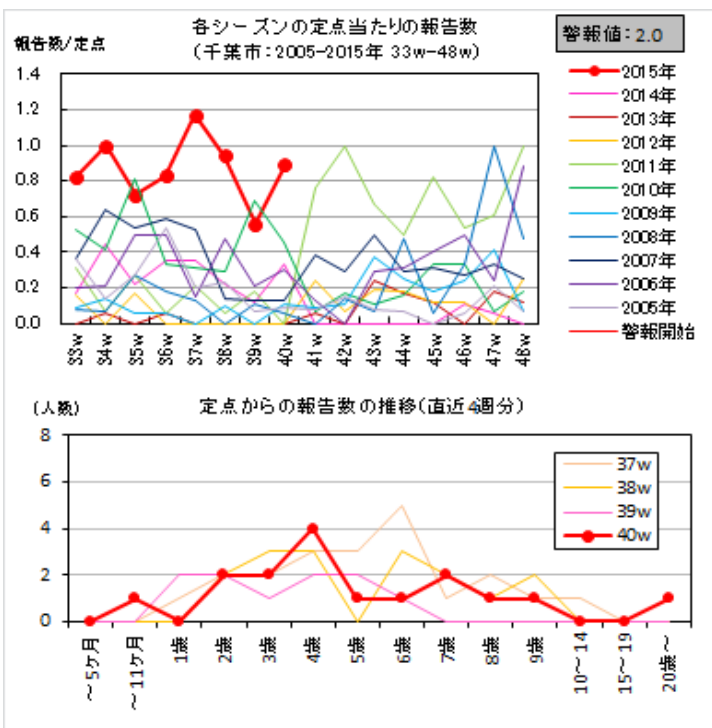
<手足口病>

全国レベルの第39週現在は、過去8年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮城県、大分県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第40週は前週から更に減少し3.83となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)は上回っています。区別の発生状況は、稲毛区及び若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区は流行発生警報終息基準値を上回っています。稲毛区(7.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第40週までの累積報告数(n=2325)によると、性別では男性が57.5%(1336名)、女性が42.5%(989名)で、年齢階級別では1歳(29.3%:682名)、2歳(20.4%:474名)、3歳(13.5%:314名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第39週現在は、過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、長崎県及び鹿児島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとほぼ同じとなっています。千葉市の2015年第40週は前週より増加し0.89となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(2.0/定点)で流行発生警報開始基準値に達し最多となっており、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第40週までの累積報告数(n=636)によると、性別では男性が54.2%(345名)、女性が45.8%(291名)で、年齢階級別では5歳(15.7%:100名)、4歳(15.1%:96名)、5歳(14.8%:80名)の順に多くなっています。



## ＜流行性角結膜炎＞

全国レベルは第34週から過去8年の同時期と比べると最多の状態となっており、第39週現在も同様となっています。都道府県別では、鳥取県、熊本県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同程度となっています。千葉市の2015年第40週は前週より大幅に増加し3.00となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(8.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)に達し最多となっており、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第40週までの累積報告数(n=128)によると、性別では男女共に50.0% (64名)で、年齢階級別では30歳代(22.7%:29名)、40歳代(19.5%:25名)、50歳代(11.7%:15名)の順に多くなっています。

